

授 業 改 善 プ ラ ン

地域名	東上総教育事務所	学校名	山武市立山武望洋中学校
-----	----------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

令和5年度調査において平均正答率は、県および全国を下回る結果であった。領域別に見ると、「図形」が最も低かった。問題別に見ると、「関数」でのグラフの意味やグラフからの説明、「図形」での根拠や性質の説明が下回っており、記述での表現に苦手意識を持っている生徒が多いと思われる。一方、無解答率は全体的に低いので、答えようとする意欲はあり、何かしら解答を書くことができると考えられる。しかし、問題の意味が分からない生徒が多く、問いの前提条件となる問題文の意味をよく理解し、自分で正しく表現できる力を育てていかなければならない。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 1～3学年の関数や図形の領域に関する授業において、少人数指導やチームティーチングによる個別指導を充実させることにより、基礎学力も向上するであろう。
- ICTを効果的に活用することにより、主体的・対話的で深い学びができるであろう。

3. 具体的な実践

- 1学年と3学年では、生徒の実態に合わせてクラスを習熟度別に2グループに分け、少人数指導を行う。
2学年ではチームティーチングによる個別指導を行い、個に応じた指導を図る。さらに効果的に個に応じた指導を行い、話し合い活動を充実させるために、生徒の実態をもとに、定期的に少人数指導のグループ編成や座席を変えるようにする。
- 「よりよく伝える」ことを目的とした言語活動の充実のために、タブレット端末でまとめを共有する。
- 関数や図形の領域に関する授業では、アプリケーションソフトを使い、図を動かしたり、切ったりし、実際に目で見て確認させる。

4. 成果

- 少人数指導やチームティーチングによる授業は、生徒一人一人に応じた指導がしやすく、生徒の意欲も高まり学力も向上している。また、少人数指導を習熟度別に編成したため、生徒同士の助け合いや教え合いする授業が増えた。
- 電子黒板やアプリケーションソフトを利用することにより、これまでに気づいていなかった見方や考え方が少しでも見えるようになった。
- ICTを課題の提示や個々の発表の場として効果的に活用できたが、思考の過程に取り入れるには、どのような方法があるのか、どのようなソフトウェアが活用できるのか調べていく必要がある。

◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 今井 清仁）

- 全国学力・学習状況調査の結果の分析から、すべての教科で授業改善に向けて検討し、改めて学力向上につなげていこうと取り組んできていた。特に数学科においては、少人数指導やチームティーチング等による一人一人へのきめ細やかな対応により、生徒が課題に取組む様子にも変化が見られてきた。